令和４年度 全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策　【松江市立 八雲小学校 】

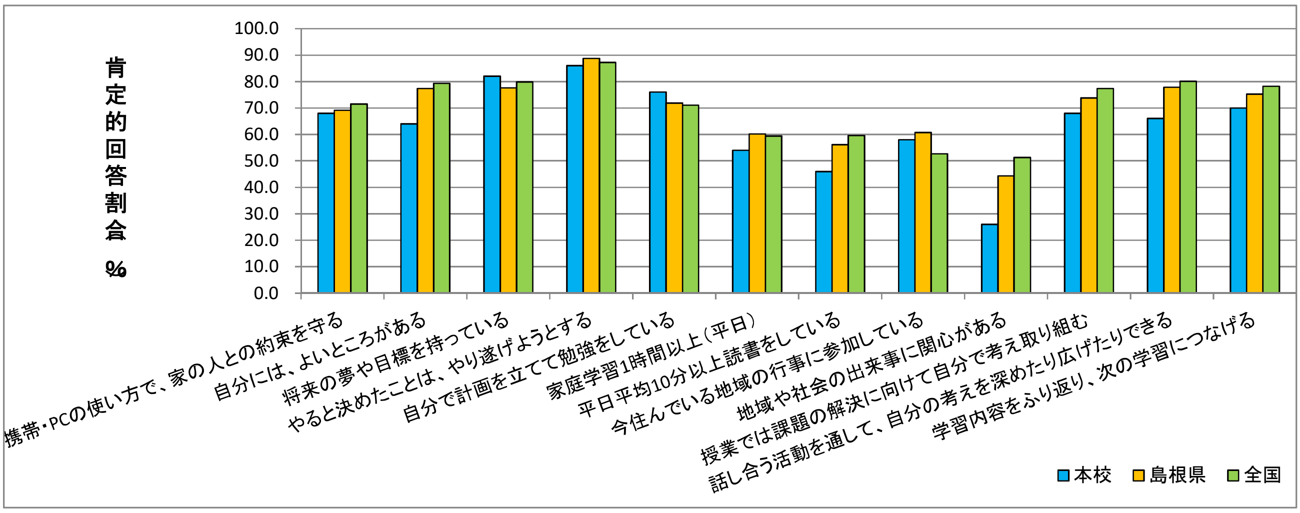
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(〇：成果，●：課題)	対 策(・)
国語	〇無回答率は昨年度より下がっている。 ●平均正答率が全国に比べて低い。特に正答率50%を下回っている児童の割合が高く，大きな課題である。 ●立場や意図を明確にしながら自分の考えをまとめることに課題が見られる。	・長い文章を読む力や要旨をつかむ力を，学年に応じて計画的に身に付けさせていく。 ・授業の振り返りやノート指導、作文指導の中で、自分の考えをまとめるために効果的な文章の構成や表現方法について指導を行う。
算数	〇「数と計算」領域において，整数の乗法の計算を正しくすることができており，昨年度より改善している。 ●全体を通して，記述式の問題の平均正答率が低い。 ●図形の意味や構成について理解できていない児童が多い。	・基礎的な計算力だけでなく，計算のきまりや公式の使い方などの定着を図る。 ・日々の授業の中で，自分の考えを明らかにしたり、学びを振り返ったりする際に、ノートやワークシートに書く活動を重視する。
理科	〇実験器具の正しい扱い方について理解している児童が多い。 ●実験や観察の結果について，仮説と比較したり，実験の経過を分析したりして解釈し，自分の考えをもつことについて課題が見られる。	・実験や観察を行う際に、自分なりの仮説を立てることや、その過程で生じた疑問を大切にしたりするような授業づくりに心がける。 ・実験の際に、その手順や器具の扱いが正しく行えるよう、児童一人ひとりが実験をする機会を確保する。

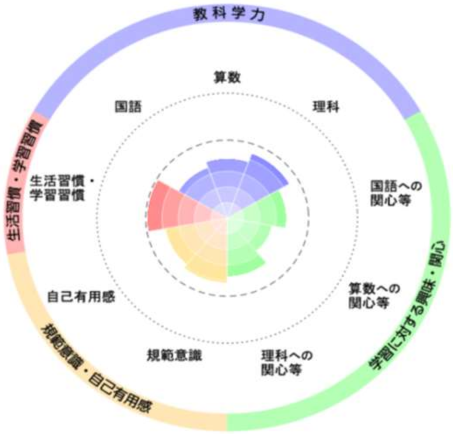
(2)児童質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(〇：成果，●：課題)	対 策(・)
質問紙	〇「将来の夢や目標をもっている」「やると決めたことは，やり遂げようとする」といった項目の肯定的回答の割合は，全国平均値とほぼ等しい。 ●「自分で計画を立てて勉強をする」割合は比較的高いものの，「平日の家庭学習1時間以上」の割合は低い状況である。	・道徳科やキャリア教育を中心に，様々な教育活動を通して目標をもつことや最後までやり遂げることの価値を実感できるような指導を行う。 ・家庭に配布している「家庭学習の手引き」をもとに，家庭学習について指導していくとともに，学年に応じた宿題の出し方や内容を工夫する。 ・小学生新聞を目立つ場所に置いたり，「新聞クイズ」を出題したりすることで，今の社会状況について興味関心をもてるようにする。

(3)児童質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・日々の授業の中で，感染症対策に十分配慮しながら，グループでの学習活動や話合い活動を学年の実態に応じて取り入れる。そのことで，自分の考えを自信をもって伝えたり，他者の考えとの相違点に気付かせたりすることにつなげる。
・タブレットをはじめとするICT機器や各種ソフトを活用することで，書くことが苦手な子どもの学習意欲を喚起させたり，丁寧な作業が課題の解決につながることを実感させたりする。
・人の話を最後まで集中して聞く態度を育成する。

【受検者数】

47 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。